

図書館だより

3月の主な受け入れ図書

<p>①白波瀬佐和子編『変化する社会の不平等』東京大学出版会 (iii+244頁,B6判) 本書は気鋭の社会学、経済学、社会保障の研究者による、格差・不平等についての実証研究の書である。格差に社会の焦点があたるなかで、これまで見えてこなかった中年無業、教育、健康、社会保障等の分野での格差・不平等の実態を分析している。不透明な時代を解き明かそうとする著者達の気概が随所に感じられる。</p>	<p>④広井良典著『ケアのゆくえ 科学のゆくえ』岩波書店 (xii+262頁,B6判) ケアの科学ではなく、ケアと科学のゆくえを議論できる人は、著者をおいていないであろう。それだけユニークな書となっているが、個人の独断的推論の書ではなく、11人の実践家との対話も収録されている。ケアを人と人との関係性ととらえる著者の、科学論を中心とした日本社会の課題と展望を示す書ともなっている。</p>
<p>②本田由紀他著『「ニート」って言うな!』光文社 (310頁,新書判) 2005年、「ひきこもり」「いじめ」にとってかわり、「ニート」がメディアを席巻した年であった。この現象に危機感をいだき、労働市場と学校から職業への移行の現状分析、いじめからニートへの社会の視線の変化の分析、ブログ上のニート論検証から本書は構成されている。はたしてニート報道は沈静化するであろうか。</p>	<p>⑤武川正吾編『福祉社会の価値意識』東京大学出版会 (iv+329頁,A5判) 本書は、「福祉と生活に関する意識 (SPSC 調査)」によって、公共政策とそれが前提とする価値や規範との関係を経験社会的に検討することを目指している。本調査は国際比較可能であり、社会心理の深層構造も解明できるといふ。価値観に基づくのではなく、社会政策の学問的分析の端緒となることを期待したい。</p>
<p>③道幸哲也著『労使関係法における誠実と公正』旬報社 (326頁,A5判) 団体交渉における使用者の誠実交渉義務と労働組合の公正代表義務について、労使関係法研究の実力者によりこの20年間に発表された論文の集大成である。現在、規制再編が行われ、組合の存在感が薄れつつあるが、著者は、当初から労使関係を規整する法理を正面から分析している。労使関係は再び脚光を浴びるだろうか。</p>	<p>⑥山下東彦著『戦略としての労働組合運動』文理閣 (334頁,A5判) 昨今、労働組合運動に関する出版が乏しいが、本書は、著者が長年感じ、考えてきたものをまとめたものである。組合運動再生のために、同一労働同一賃金、普遍主義的福祉、全国一律最賃制の3つの原理が必要との主張は説得的であり、大いに議論されるべきである。諸個人が発展できる連帯のありかたが問われている。</p>
<p>⑦武建一他編著『労働運動再生の地鳴りがきこえる』社会批評社 (262頁,B6判) ⑧三富紀敏著『欧米のケアワーカー』ミネルヴァ書房 (xii+362頁,A5判) ⑨小越洋之助著『終身雇用と年功賃金の転換』ミネルヴァ書房 (vi+354+8頁,A5判) ⑩菅沼隆著『被占領期社会福祉分析』ミネルヴァ書房 (ix+295+10頁,A5判) ⑪宮城まり子監修『キャリアサポート』駿河台出版社 (397頁,BA5判)</p>	<p>⑫松宮健一著『フリーター漂流』旬報社 (204頁,B5判) ⑬関島康雄著『組織内一人親方のすすめ』日本経団連出版 (221頁,B6判) ⑭ドーンセンター編著『仕事論』アルゴ (vi+217頁,B5判) ⑮田中安平著『介護の本質』インデックス出版 (201頁,B5判) ⑯立石泰則著『働くこと、生きること』草思社 (230頁,B5判)</p>

(新着受け入れ図書の詳細は、当機構ホームページの「労働図書館」内「新着図書情報」をご覧ください)

今月の耳より情報

図書館用語シリーズの第三段です。今回は、「請求記号 call number」を取り上げます。「資料が配架されている位置を示す記号」ですが、少し違和感のある用語だと思います。請求記号は、歴史的に閉架式の図書館が全盛の時代に、図書館利用者が資料の閲覧を受けようとカウンターに請求するとき、利用申込書にその資料の位置を示す記号を記したことに始まると言われています。目録にも記されていますが、現物の場合、資料の背ラベルに表記されているものがあります。背ラベルは、三段になっているのが一般的で、第一段目が分類記号、その下二段が図書記号となっているのが通常です。当館では、分類記号は単行本は日本十進分類 (NDC)、報告書等は発行機関ごとの分類記号の二本だてで、図書記号は、資料のタイトルのアルファベット表記の三文字を使っており、三段目には、シリーズ物の場合の巻数や改訂を重ねた資料の場合の発行年などを記していますが、空欄となることが多く、著者名や受入順などが入れられることが多いようですが、タイトルを使っていないのが当館の特徴となっています。あるテーマの資料を書架を逍遥 (ブラウジング) しながら探す時に、請求記号についての知識があると意外な資料を見つけることがあります。それぞれの図書館のシステムをよく理解すると思わぬ発見があるものなのです。当館のシステム

図書館長のつぶやき

それぞれの図書館が所蔵する図書館資料をどう分類するか、そして具体的にどういう配架にするかに、それぞれの個性・識見が現れ、書架をみればその館の実力がわかるとも言われます。当館は、「耳より情報」にも書きましたが、日本十進分類 (NDC) と独自分類を併用しています。専門図書館の多くは、その館の主題とするところが限られているので、日本十進分類の「000総記」から「999国際語による文学」までのすべての区分を使うことはほとんどありません。それで、それぞれの館が主題とする分野を独自分類することが多いようです。当館も、「336経営管理」や「366労働経済・労働問題」が収集資料の中心を占めますが、単行本については、NDCとしています。また、請求記号の中の図書記号については、タイトルのアルファベット表記としています。「労働」とか「職業」というタイトルの本が多いので、「rod」「sil」が多くなることになりました。著者名を使ったほうが分りやすく、同じ著者の本が並ぶことも多いので、利点が多いように思いますが、これまでの蓄積があるので変更するにはかなりのコストがかかりすぎるのと、現状のメリットをよく理解していないだけかもしれません。慎重に検討する必要がありますが、「現実的なのは合理的」であるのかもしれない。

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書97,000冊、洋書25,000冊、和洋の製本雑誌20,000冊を所蔵している労働関係の専門図書館です。労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。その他にも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌 (490種)、洋雑誌 (220種)、紀要 (450種)、組合機関誌・紙についても、受け入れています。



特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、日本経団連など経営者団体の刊行物や民間研究団体刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特にILO (国際労働機関) 総会の議事録やOECD (経済協力開発機構) の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションは、戦前・戦後を通して労働組合の歴史的に貴重な原資料を収集、保管しています。

開館時間: 9:30~17:00
休館日: 土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始 (12月28日~1月4日)、その他
電話番号: 03(5991)5032 / FAX: 03(5991)5659
利用資格: 閲覧はどなたでも自由にできます
貸出: 和書・洋書とも2週間、5冊までです
※身分証明書 (運転免許証、健康保険証など) をお持ちください
レファレンスサービス: 図書資料の所在調査などのサービスを行っています